

北海道浮魚ニュース

令和3(2021)年度4号

2021年5月28日

道総研 水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ：<http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/shigen/ukiuo/index.html>

◎日本海スルメイカ北上期調査結果

5月18日～25日の期間、津軽海峡周辺から秋田県沖にかけての日本海で、函館水産試験場調査船金星丸(151トン、イカ釣機5台、集魚灯20灯装備)により実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。

- ・ スルメイカの分布は非常に低密度で、全漁獲調査点の平均 CPUE は昨年および過去5年平均を下回った。
- ・ 体サイズは昨年および過去5年平均より小さかった。

1. 水温分布 (図1)

漁獲調査点5地点の表面水温は13.9～15.2℃(昨年は11.5～13.7℃)、深度50mの水温は10.1～11.8℃(昨年は8.8～11.4℃)の範囲にありました。

スルメイカの分布の目安となる深度50mで10℃以上の水温帯は、東経138°30'線付近から沿岸側に広がり、調査海域の北西側では水温が4℃台まで低くなっていました。また、津軽海峡周辺の50m深は昨年と同様に暖かく、10℃以上の水温帯が北に広がっていました。

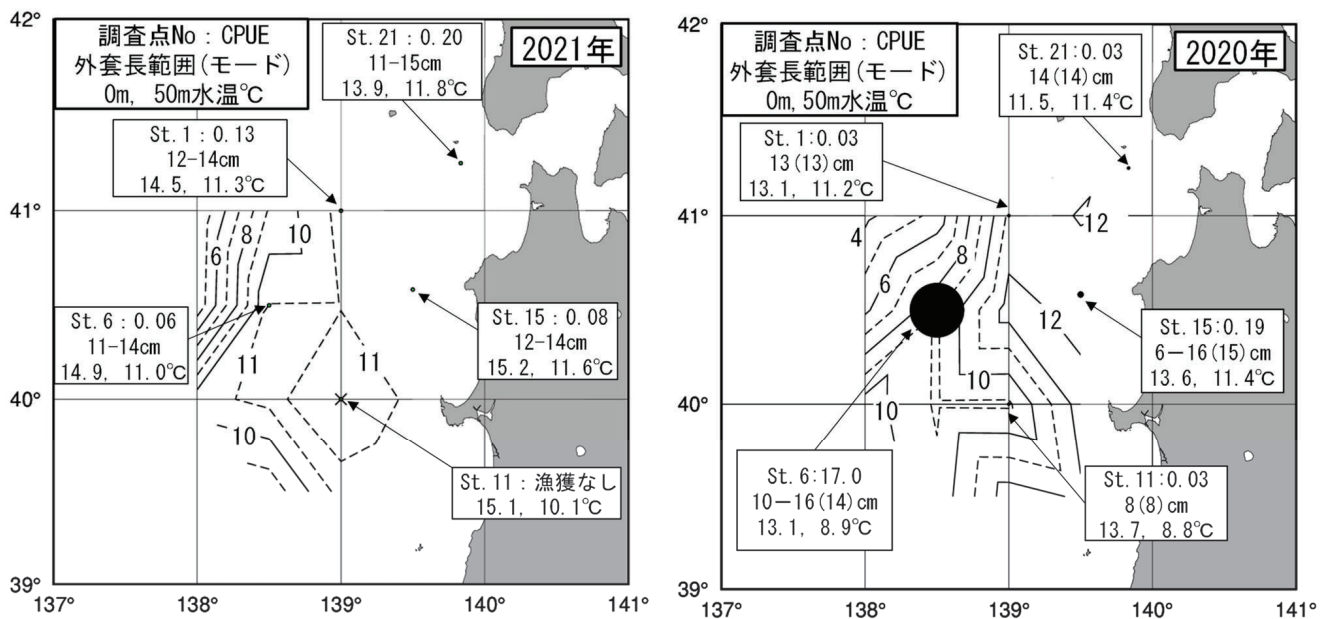


図1 スルメイカ漁獲調査結果と深度50mの等温線図(左:2021年、右:2020年)
矢印の先は漁獲調査点で●の大きさはCPUEに比例。×は漁獲なし。

2. 流向流速分布

航行中の ADCP 観測により得られた深度 50m における航路上の流向流速を図 2 に示します。水温分布と照らし合わせると、対馬暖流は東経 138° 30' 線付近を北上し、北緯 41° 付近では北東方向へ向かっていました (図 2)。

道総研では北海道周辺海域で、2 ヶ月ごとに 3 隻の調査船を用いて定期海洋観測を行い、海況速報を発信しています。以下の URL にて公開していますので、こちらもご参照下さい。

<https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/kankyousokuhou/>

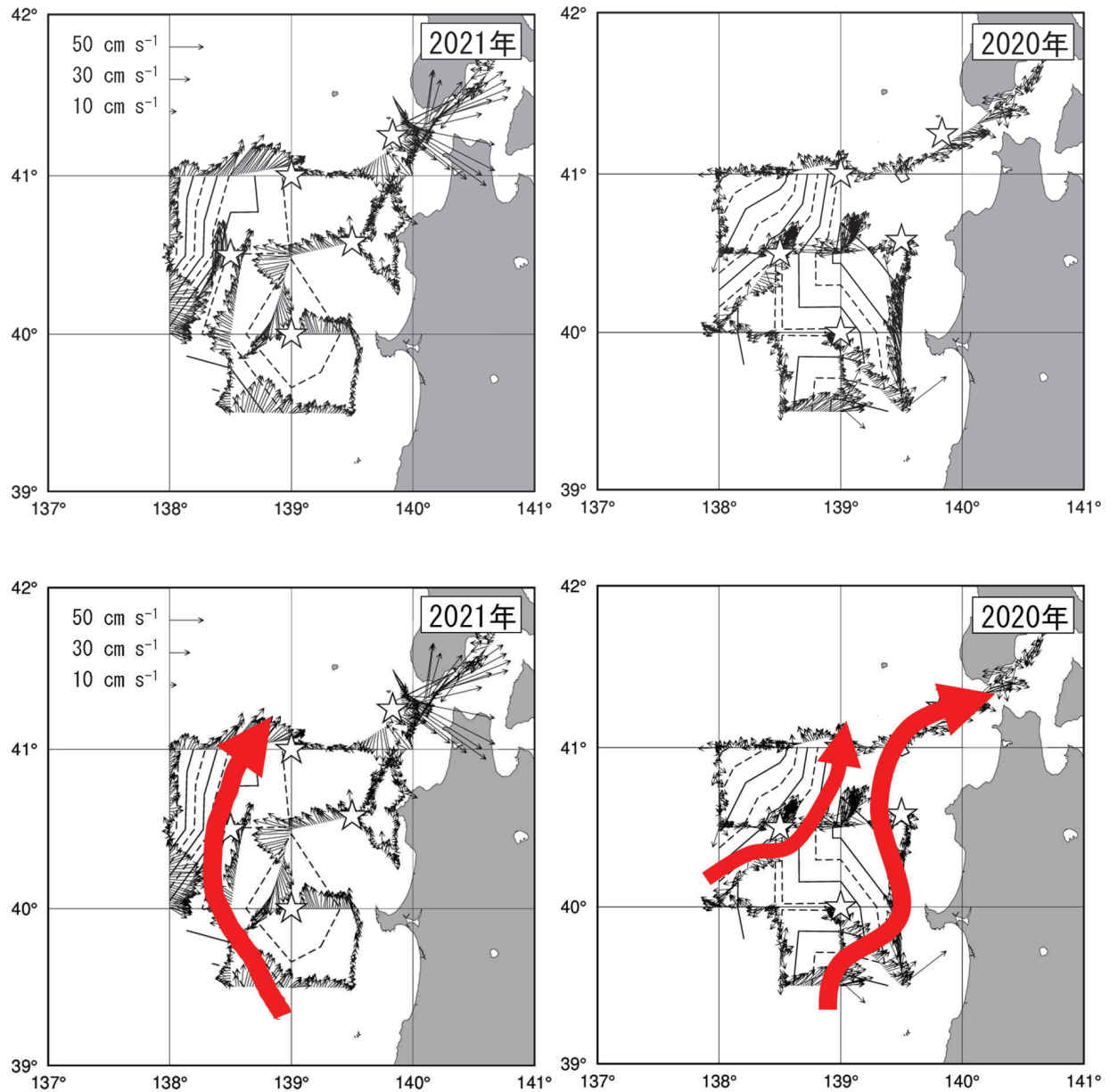


図 2 2021 年 (左) と 2020 年 (右) の深度 50m の流向流速と等温線図
下段は対馬暖流の模式図を書き加えたもの。☆は漁獲調査点。

3. スルメイカ分布密度（図1、図3）

漁獲調査点5地点のCPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たり漁獲尾数）は0～0.20（昨年0.03～17.0）の範囲にありました。CPUEが最も高かったのは松前小島近辺のSt.21でCPUEは0.20（昨年はSt.6で最も高く、CPUEは17.0）でした。また男鹿半島沖のSt.11以外では、漁獲はあったものの、CPUEは低い値（0.06～0.13）でした。

漁獲調査を行った5地点の平均CPUEは0.09で、昨年の5地点の平均（3.4）および過去5年の平均（5.6）を下回り、2019年（0.03）に次いで低い値でした。

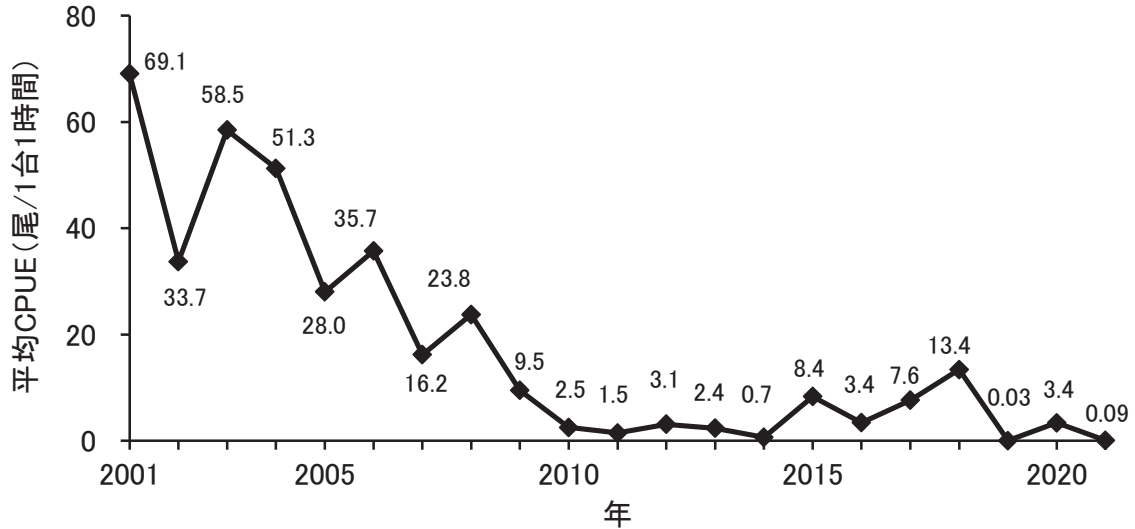


図3 松前以南5地点の平均CPUEの経年変化

4. スルメイカの大きさ（図4）

今回の調査で漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は11～15cm（昨年10～16cm）で、昨年よりも小型の比率が高くなっていました。また、最も多く漁獲されたスルメイカの大きさ（外套長のモード）は昨年と同じで、過去5年平均より小さい14cmでした。

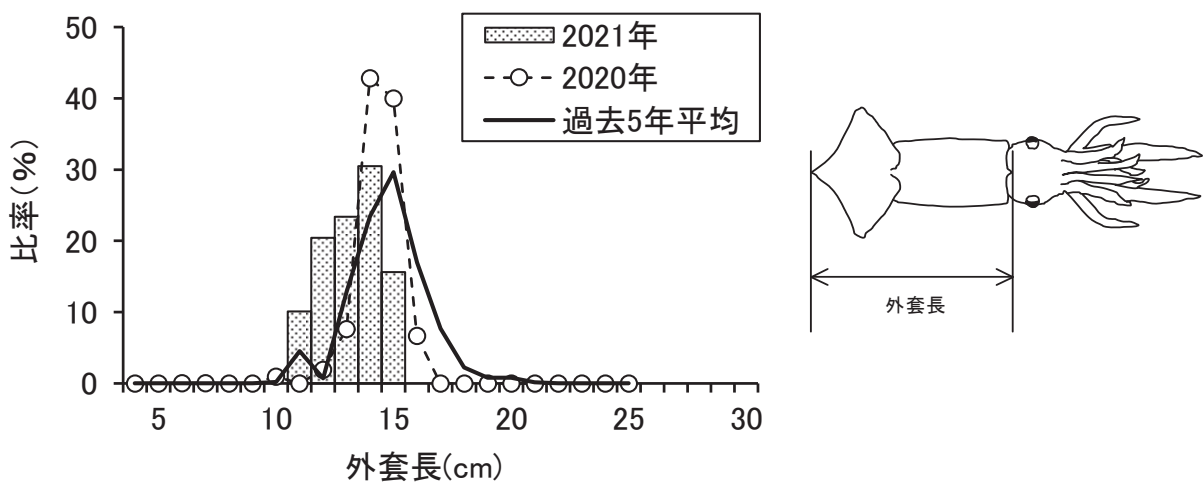


図4 調査海域全体の外套長組成